

Photographic Society of Zone System

ゾーン・システム研究会会報

発行日：2006.12

発行者：中島秀雄

事務局：畑文夫

編集部：荒井崇

NO.35

CONTENTS

- Ansel Adams Gallery について
- 研究会記事アサヒカメラ掲載
- 研究会イオン水戸展覧会
- 静物撮影会報告
- ゾーンシステム研究会定例会日誌
- インフォメーション



アダムスが撮影したマリボサ裁判所(1934 年) の前で記念撮影(2006 年)。

撮影時刻は偶然同じ時刻になった。

Ansel Adams Gallery について

中島秀雄

“ アンセル・アダムスはハンサムな子供ではなかった。彼の目の下は暗く、鼻は曲がり、耳は大きく、彼はリスのようだった。彼はそのことに悩み、しかし、常に動きまわり、よく話をした。12才のとき、彼は麻疹にかかり横になっていた。彼の母は、医者がアドバイスしたように明るい光が彼の目を傷つけないように暗いベッドにつれていった。14才になったアンセルは冷たいベッドの中にいた。伯母のメアリーは彼に読むための何冊かの本を持ってきた。彼は、伯母が写し取った J. M. Hutchings が書いた「In the Heart of the Sierras」 という小説が大好きだった。”

今回、アンセル・アダムス・ギャラリーで買った本の一節に以上のようなことが書かれていた。一冊の冒険小説を読み聞かされたことが、少年アンセルを動かした。アンセルは小説の舞台が**ヨセミテ**だと思ったようで、1916 年、ヨセミテ家族旅行につながった。

今回、我々はいくつかのテーマを抱えて**ヨセミテ国立公園**に向かった。一つは、アダムスの撮影地ヨセミテの自然を我々の感性と眼差しで撮影する。二つ目は、アダムス・ギャラリーを訪ね、作品鑑賞、収集と**ギャラリーの歴史**を学ぶ。三つ目は、**マイケル・アダムス**に会い、前回のお礼や親交を深めることだった。

他のテーマは別の参加者にお願いするとして、アダムス・ギャラリーについて今回のレクチャーと私が以前調べた文献をまとめてみた。

ヨセミテ国立公園は、カリフォルニア州の東に連なるシエラネバダ山脈の麓にある。面積は 3700

平方キロメートルで東京都の約 1.5 倍、奈良県とほぼ同じ面積を有し、一つの県が国立公園というから驚いてしまう。切り立つ岩山、滝、川、湿地帯、森林。しかし、そのすべてに誰もが簡単に歩き回することは難しく、我々が楽しめるエリアは溪谷とその周辺のわずかな部分にすぎない。この溪谷のほぼ真ん中をマーセドリバーが流れ、川を挟んで南側にカーリービレッジ、北側のヨセミテビレッジに分かれている。アンセル・アダムス・ギャラリーはヨセミテビレッジの一角にある。三角の屋根を中心とした木造建築で、正面入り口の大きなサインボードが最初に目に飛び込んでくる。白地に**アンセル・アダムス・ギャラリー**と黒文字で書かれたボードは、一目でゾーンの意味だと理解できる。

ドアを開けて中に入ると、ネイティブな色付けの壺、皿、タコイスと銀のブレスレット、壁面には写真集やポスターが並び、ヨセミテの美しさと違和感ないインテリアは眺めるだけでも楽しめる。ギャラリーはそこから一段上がったフロアーの奥で、スポットライトに照明されたアダムスのプリントに自然に引き込まれていく。

私はプリントを見るよりかつてここが**写真スタジオ**だったこと、そして、この空間のどこかに**ピアノ**があって、**男女の出会いがあったこと**などを想像していた。

ところで、ギャラリー入り口には、**SINCE 1902**と大きな文字が書かれている。**1902 年**といえばアンセル・アダムスが生まれた年で、私は、アンセルが生まれたときすでにこの建物はアダムス家のものと思っていた。しかし、そうではなかった。**Harry Best** による” **Best’s Studio**” が開業した年代だった。アンセルが生まれた年に建てられたわけで、アンセルの将来はすでに決められていたと思えてくる。風刺画家であり写真に興味のあ

った Harry Best は 1902 年ここに写真スタジオを建て、観光客の記念写真や教会での結婚式の写真を撮っていた。その後、ハリー・ベストは、ホテルの写真スタジオで働いていた女性 Anne Ripe と結婚し、彼女のスタジオでの経験を生かした白黒写真に色をつける方法でプリントを売り出し、それが当たり商売はうまくいっていたようだ。やがて二人の間に女の子が誕生する。名前は Virginia とつけられた。彼女はピアノと声楽を勉強し、登山にも強い興味を持ちヨセミテの自然の中で成長していった。

一方、アンセルはいかかわらず学校には行かず、家庭教師について学習し、傍らピアノ演奏に強い興味を示すようになる。12 才の時にはコンサート・ピアニストのマリエ・バトラーについてピアノ練習に取り組み、それ以後二人のピアニストについて本格的にピアニストをめざすことになる。しかし、アンセルは 14 才のとき、ヨセミテ家族旅行で写真を撮ったことがきっかけとなり、15 才のとき独学で写真をマスターし、その後、仕上げるアルバイトが出来るまでになっている。ヨセミテの美しさに魅せられ写真に興味を持ち、日々のきついピアノ練習から一時開放されることから、毎年夏にヨセミテに行くようになる。また、17 才のときにインフルエンザにかかり体を弱めてしまい、自然の中で体を鍛えることもヨセミテに行く大きな理由だったようだ。事実、ヨセミテに行くなりアンセルは元気を取り戻し、父親に花を贈って喜びを表している。しかし、心配した両親は、ヨセミテ公園のどこかにピアノ練習が出来る場所がないか探していた。19 才になったアンセルは、この年、将来を決める上での運命的な出会いに遭遇することになる。ある日、アンセルは用事で Best's Studio を訪ねたとき、そこにピアノがあることを知る。アンセルにとってヨセミテは一

時ピアノを忘れる場であり、音楽から離れ自然の中に身をおく休息の場として捉えていた。

ベスト氏の許しを得てピアノの前に座ることが出来たアンセルは、興奮する気持ちを抑えながらピアノのキーに触れた。アンセルが弾くピアノの音にそこに居合わせた誰もが引き付けられ、アンセルのピアニストとしての才能を認めざるをえないほどすばらしい演奏に周囲の人たちは驚いてしまう。

しかし、アンセルはピアノを見つけたことに留まらず、ハリー・ベスト氏の娘 Virginia と出会うのである。そして、7 年後の 1928 年アンセルが 26 才のときに Virginia Best と結婚し、ベスト・スタジオを手伝うようになる。やがてアンセルとバージニアが Best's Studio を運営するようになり、今日のアンセル・アダムス・ギャラリーに至っている。

声楽家であり登山家でもあったバージニアとの出会いは、満足な登山の知識も無いアンセルにとって大きな助けになったに違いない。今回のレクチャーのとき私は担当者に質問した。“もし、このスタジオにピアノがなかったら歴史は違っていましたね” 担当者は近くにいたマイケルを指差し、“彼もいなかった”と言ったのが印象に残っている。

アンセルは益々写真の世界に興味を深めていく。一方、23 才のときにピアニストになる決意をし、決意の証として両親からメイソン&ファミリーのグランドピアノを買ってもらう。しかし、彼が 28 才のときニューメキシコ州タオスに撮影旅行に行ったとき、ジョージア・オキーフの紹介で当時有名だったポール・ストランドに会い、彼のネガを見せてもらい、そのすばらしさに感動し、自身の写真表現の可能性を信じ、写真家になることを誓う。

ピアニストから写真家に転向した理由は健康のこと、経済的なことがあったかもしれないとボストン美術館キュレーターのカレン・E・ハス女史は名古屋で語っていた。

以来、アンセルはヨセミテ、カーメルを拠点にして、大型カメラで撮り続けることになる。

スタジオ経営から土産物店への変更はバージニアの希望だったようだ。しかし、周囲の土産物店の商品を見てもヨセミテらしい商品の少ないことにがっかりし、何とか特徴づけたいという思いから、アンセルのヨセミテプリントを売るアイディアにつながった。

1977年、私が始めてヨセミテを訪ねたとき、周囲のみやげ物店には様々な写真家が撮影したヨセミテのオリジナルプリントが販売されていた。しかし、最近はほとんど絵葉書に変わっている。**オリジナルプリント**に拘るアンセルの意思是、これからも続いていくことだろう。

ここで売られるヨセミテ・スペシャル・エディション・プリントは、アンセルの許可の下に当時のアシスタント、アラン・ロスがネガを預かり、現在も彼の自宅でプリントされている。かつては単にボードにドライマウントされただけだったが、現在はブックマットになっている。また同じイメージでも、プリントされた年代によってトーンに微妙な違いがあり、これもプリント・コレクションの楽しみと言える。

アンセルが亡くなった後、ギャラリー運営は息子のマイケルと奥さんのジーンさんが関わり、現在は息子のマシュー・アダムスが運営を任されているようで、ハリー・ベストから4代目ということになる。

・ポール・ストランド

1890年、ニューヨーク生まれ。

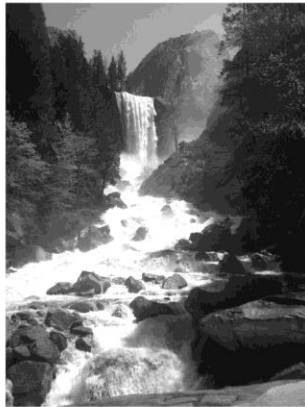
ルイス・ウィックス・ハイン(米国、児童労働法を作るきっかけになる写真を撮った)に写真を学ぶ。後にギャラリー291を開いたアルフレッド・スティーグリッツに強く影響をうける。商業写真、軍のX線写真の技師。映画の撮影でメキシコに1年滞在、ジョージア・オ・キーフらと本を出版する。1950年、スチル写真家としてフランスに引っ越す。ドイツ、チェコで賞を受ける。写真の中にパターンや抽象的なフォルムを取れいたパイオニアで、シルバークラウドプリントのほかに、プラチナ、パラジュウムプリンも手がけた。1976年パリ近郊で死。

・ジョージア・オキーフ

1887年、ウィスコンシン州 サンプレー生まれ。

20世紀を代表する米国の画家。アルフレッド・スティーグリッツとの生活は有名で、オキーフのヌードを撮っている。花、貝殻、牛の頭蓋骨を大胆に描き、女性の強さを優しい筆のタッチで表現した。ニューメキシコ州の荒涼とした地に建てた土壁の家に一人で住み続けた。すでに他界。

Ansel Adams Galleryとヨセミテ
(2006年ゾーンシステム研究会ヨセミテツアーより)



研究会記事アサヒカメラ掲載

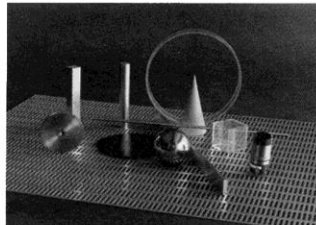
ゾーンシステム研究会が、アサヒカメラ 2006 年 7 月号に紹介されました。(右写真はアサヒカメラ編集部の宮野氏)



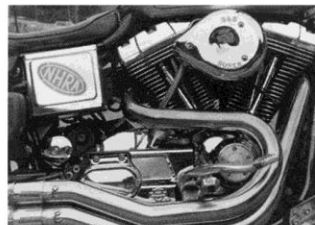
募集しています！ 写真を大に楽しんでいるクラブ、グループ、教室、また高校、大学のサークルなどの例会におじゃまします。
ご希望の方は、クラブ名・代表者名・創立年・会員数・連絡先・例会日・簡単なクラブ紹介を、編集部「写真仲間」に会いに行くと、係までお送りください。



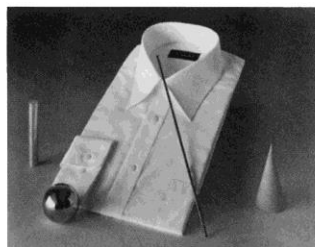
Siesta Lake, Yosemite, CA
田中英司



Urban Architecture
菅野慶孝



Motorbike
木下 威



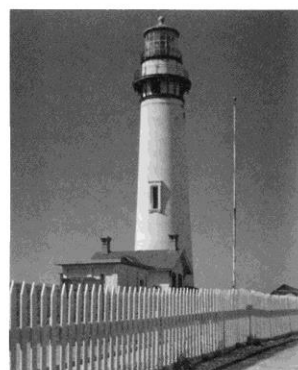
Memory
北野龍一



ナバホルルド
小野 望



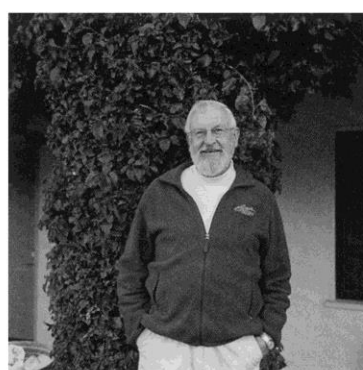
Point Lobos Calif.
橘田 功



Light house, Pigeon Point, CA
畑 文夫



Mission
松本ひさ子



Michael Adams
中島秀雄

ブなどがあり、今年2月には、写真家の築地仁さんによる「写真を撮ること・見ること・作ること」のセミナーが開かれた。12月には展覧会も予定している。詳細は、会報に掲載される。

中島さんは、東京写真短期大学（現・東京工芸大学）卒業後、細江英公氏の助手となり、70年万国博覧会写真制作に参加。個展を開催し、写真集も出版。自らの写真制作にゾーンシステムを取り入れてきた中島さんと、同校で写真測光（センチメートル）を専攻し、東京工芸大学芸術学部教授として写真制作システムを教育活動に生かしている田中益男さんとの共著『ゾーンシステム・ハンドブック』が出版されている。

多くの写真愛好家にモノクローム銀塩写真制作のための合理的な方法を伝えたいという。入会に関する詳細は事務局まで。（本誌「宮野純子」）



【後列左から】鈴木匡、田中英司、小宮秀一、佐野司郎、古谷津純一、山下誠一、長谷川登
 【中列左から】篠原康之、鷺尾朋美、内山亮子、宇野裕、本田勝美、石井政吉、橋田功、木下威、岡崎克之
 【前列左から】園子靖也、山本昭二、小野望、古川翔士、中島秀雄、菅野慶孝、畑文夫、松本ひさ子

写真仲間 会いに行く

Photo Club

ゾーンシステム研究会

代表者：中島秀雄
 創立年：1995年
 会員数：50人
 連絡先：〒181-0001 三鷹市井の頭
 1-27-22(事務局：畑 文夫)
 TEL：0422-46-1086
 E-mail：zonesystem@u01.
 gate01.com
 URL：http://hw001.gate01.
 com/zonesystem/

この会を指導している中島さんは、ゾーンシステムを学ぶうえで大切な「美しいものを美しく撮り、完璧な

ことが会の特徴になっている。この会を指導している中島さんは、ゾーンシステムを学ぶうえで大切な「美しいものを美しく撮り、完璧な

この会を指導している中島さんは、ゾーンシステムを学ぶうえで大切な「美しいものを美しく撮り、完璧な

この会を指導している中島さんは、ゾーンシステムを学ぶうえで大切な「美しいものを美しく撮り、完璧な

この会を指導している中島さんは、ゾーンシステムを学ぶうえで大切な「美しいものを美しく撮り、完璧な



アンセル・アダムスの子息マイケル氏を囲んで。2005年、米国アンセル・アダムスのスタジオで



講師の中島さんが、会員の作品を丁寧に講評



研究発表をする古谷津純一さん「8x10 Light Source」の作製



「ゾーンシステム・ハンドブック」(中島秀雄、田中益男著・2800円＝税抜き・朝日ソノラマ)

カメラフォーマットを上げることがある。この会を指導している中島さんは、ゾーンシステムを学ぶうえで大切な「美しいものを美しく撮り、完璧な

この会を指導している中島さんは、ゾーンシステムを学ぶうえで大切な「美しいものを美しく撮り、完璧な

この会を指導している中島さんは、ゾーンシステムを学ぶうえで大切な「美しいものを美しく撮り、完璧な

この会を指導している中島さんは、ゾーンシステムを学ぶうえで大切な「美しいものを美しく撮り、完璧な

この会を指導している中島さんは、ゾーンシステムを学ぶうえで大切な「美しいものを美しく撮り、完璧な

活動は、ほかに人物、静物、風景撮影会や米国のアンセル・アダムスの暗室とギャラリーを訪ねるツアー、ヨセミテ国立公園撮影会、ワークショップ

活動は、ほかに人物、静物、風景撮影会や米国のアンセル・アダムスの暗室とギャラリーを訪ねるツアー、ヨセミテ国立公園撮影会、ワークショップ

活動は、ほかに人物、静物、風景撮影会や米国のアンセル・アダムスの暗室とギャラリーを訪ねるツアー、ヨセミテ国立公園撮影会、ワークショップ

活動は、ほかに人物、静物、風景撮影会や米国のアンセル・アダムスの暗室とギャラリーを訪ねるツアー、ヨセミテ国立公園撮影会、ワークショップ

活動は、ほかに人物、静物、風景撮影会や米国のアンセル・アダムスの暗室とギャラリーを訪ねるツアー、ヨセミテ国立公園撮影会、ワークショップ

研究会イオン水戸展覧会

- ・日程：２００６年９月２１日～２７日
- ・会場：イオンショッピングセンター水戸内原
２階イオンホール

ゾーンシステム研究会展覧会が“イオン水戸内原ショッピングセンター”で開かれました。

急な企画のために、希望する会員のみが参加するというイレギュラーな展覧会になりましたが、大きなホールすべてを使い切り、すばらしい展覧会になりました。

常々、ゾーンシステム研究会として、地方での展覧会開催を考えていましたが、京都展以来２回目の地方展覧会になり、その規模も今までに無いものとなりました。

周知期間が十分になかったことが少し悔やまれますが、見てくれた人たちからは、「撮影地はどこか」、「被写体が面白い」、「モノクロ写真がこんなに美しいとは知らなかった」等、感想、反応の声が出ていました。

特に２０代３０代の若い人は、このようなモノクロファインプリントを見たことが無かったという人が多かったようです。中には、「このような写真をやってみたい、もっと見てみたい」という声もありました。

なお、今回の展覧会企画は、茨城在住の会員である小菅さんがイオンの担当者と知り合いだったことで実現した企画です。

会場費用は無料、作品のタイトル、展示作業も全てイオンの担当者が行ってくれたそうです。更に作品の発送費用までもイオンのほうで負担していただきました。

更に今回は、同一作者の作品毎にまとめて展示し、作者の顔写真とコメント及びタイトルを掲示する。という新しい試みもなされました。

皆様も御存知とは思いますが、イオングループは現在急成長している流通関連企業です。今後ともイオングループと何らかのつながりが出来れば、ゾーンシステム研究会をアピールしてもらえそうな企画展を御願いできるかもしれません。

小菅さん、中島先生、北野さん、橘田さんをはじめ、展覧会の準備や片付けを手伝っていただいた方々、お疲れ様でした。

イオン水戸展覧会スナップ（１／２）



イオン水戸展覧会スナップ（２／２）



静物撮影会報告

荒井崇

- ・日時：2006年8月16日（水）
- ・場所：横浜市市民活動支援センター会議室
- ・参加者：中島先生、宇野、石井、小菅、浜野、荒井、北野、畑

九州に近づいた台風の影響か、朝から雨が降り、なおかつ蒸し暑いというあまりコンディションのよくない日でしたが、7名が参加しました。

当日のテーマは「形態美の追及」。中島先生の用意した建築金物や魚、各自の用意した野菜などで、市民活動支援センターの会議室はさながらお料理教室のような様相を呈しました。

会場では二つのコーナーを用意。一方では金物を各自が積み木のように組み替えて自由な発想で撮影、もう一方ではキャベツやセロリ、カボチャ、ナスなどを切ったり、糸で吊るしたり・・・と、多彩な形を追求しました。

・金物：金属性煙突の部品をアレンジして撮影。いつもながら周りの写りこみを抑えるのがポイント。各自造形的な配列にもかなり注意を払って撮影していました。

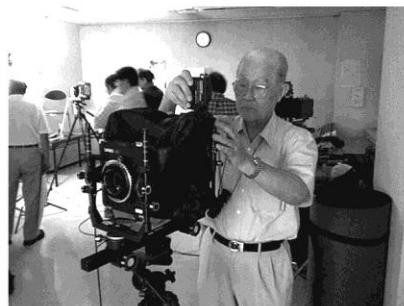
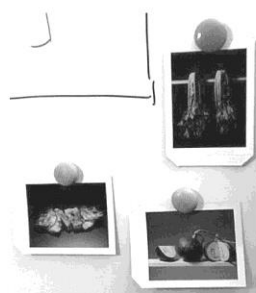
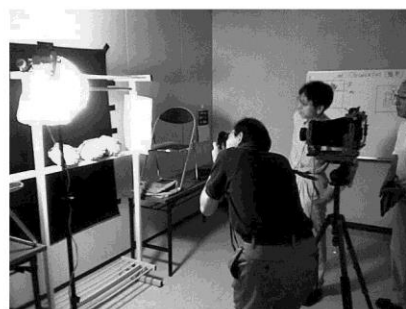
・キャベツ、カボチャ、ナス：板を横に這わせてた上に載せて撮影。農家における野菜置き場の棚のイメージでした。バックにサランラップを使ってビニールハウスのイメージを添えたり、更なる味付けにもトライしました。

・白菜：上から糸で吊るして撮影。糸が切れてしまったりアクシデント続出、四苦八苦しながらの撮影でした。

・魚：塩を撒いてテカリを出し、バックから前方へ向けての料理用ライティング。グロテスクな作品ができそうなモチーフでした。

中島先生の指導により、大変有意義なワークショップとなりました。このワークショップで学んだことを、各自の作品作りに役立てて行きたいものです。

静物撮影会スナップ



ゾーンシステム研究会定例会日誌

2006年9月9日(土)

横浜市市民活動支援センター会議室

・**出席者**：中島先生、浜野、荒井、宮岡、古谷津、圓子、岡崎、北野、松本、菅野、小野、小菅、鈴木匡、畑

見学：加藤氏

・**作品持参者**：松本、荒井、岡崎、浜野、宮岡、古谷津、圓子、北野

■ 水戸の写真展について

(9月21～27日 イオン水戸内原ショッピングセンターにて)

・急な話だが、地方でもゾーンシステムの展示を行えるチャンスを利用したい。

・写真展のタイトルは「光への探求ーフェイスプリント」とする。

・出品者(*印：本日不在)：中島先生、小野、岡崎、菅野、北野、古谷津、松本、畑、橘田*、篠原*

・出品者は「自分の氏名、プロフィール、顔写真(必須ではない)、作品タイトル」を、運営担当の(株)イツ星野氏宛電子メールで送付。9月12日(火)必着

・作品は9月19日(火)必着：展示作品(額装済みのもの)を小菅氏あて宅急便で送付。(額の裏には作者、作品タイトルのメモを貼付のこと)

■ 暗室ワーク

9月10日の工芸大暗室使用の許可が9月8日におりた。周知の時間がないが少人数でも実施する。(参加予定 松本、宮岡、北野、圓子・・・)

■ 研究会写真展(コンタックスサロン)

候補作品は10月例会で決定。

2006年10月14日(土)

横浜市市民活動支援センター会議室

・**出席者**：中島先生、畑(幹事会のみ)北野、古谷津、宮岡、松本、荒井、石井、越後、橘田、岡崎、小菅、鈴木(匡)、鈴木(武)圓子

見学：加藤氏

・**作品持参者**：松本、荒井、石井、越後、橘田、岡崎、小菅、鈴木(匡)

・見学者加藤氏紹介あり。

インターネットで研究会を知ったとのこと。人物中心に撮影をされている。

・水戸イオン展覧会無事終了。今後もこのような企画があればやっていきたい。

・先日、中島先生がフォトグラフィカ(デジタル写真雑誌)の取材を受けた。

・現在、井本氏(元コダック社員)ワークショップが継続中。大変参考になるので、いずれ内容を会報に載せることを検討したい。

・来年の総会講師はエドワード・レビンソン氏(ピンホール写真家)にお願いする。

・先日、中島先生へ安藤氏(元ポラロイド社員)より低公害印画紙処理薬品の紹介があった。定着液は何とアルカリ性。通常で家庭で廃液を流せるので便利。ただし高価(通常薬品の約2倍)

・作品講評(写真展出品作品選出)

■ 写真展に関する事項

*最終プリントチェック：11月11日次回例会

*額装：12月2日、12月9日

*プリントサイズ：14x17(ただし、画質の問題)

等事情がある場合のみ 11x14)

*余白：14x17は幅 2.5cm（従来と同一。マットの余白寸法設定も従来どおり）

11x14は幅 1cm（従来より狭くする。大きく見せるため）（ただしマットはイメージよりやや小さく切り余白は見せない。）

*DM写真、写真展公報用写真：出展者各自気に入った作品を1点キャビネサイズで中島先生へ送付すること。（11月11日まで）その中から中島先生が選出する。

2006年11月11日(土)

横浜市市民活動支援センター会議室

- ・**出席者**：菅野、小野、古谷津、荒井、松本、石井、岡崎、浜野、加藤（新入会）、越後、橘田、鈴木匡、田中肇、北野、宇野、宮岡、畑
- ・**作品持参者**：松本、荒井、石井、越後、橘田、岡崎、鈴木（匡）、小野、古谷津、浜野、加藤

■ 2006年写真展関連

- ・額装：12月2日（土）、3日（日）（場所：田中英司さんアトリエ）
- ・写真展会場でレクチャーを行う 12月23日（祝）15時～荒井氏、中島先生
- ・パーティは未定（会場を確保できるか？）
- ・キャプションについて

今回は個人別に作品をまとめて展示すると同時に、作者の顔写真とコメントなども掲示する。ハガキ大の大きさに、顔写真（白黒 3cm角程度）と自己紹介、作品のコメントを100～200字程度で記載。作品タイトルは英語、日本語とも可。

- ・来年、京都展を検討中。（イシスが無くなったので、会場を検討中）

Information

【訃報】

・大竹肇さん

ゾーンシステム研究会会員の大竹肇さん（当時休会中でした）が、去る２００６年６月、７３歳にて逝去されました。

体調不良のため、なかなか作品制作をすることができませんでしたが、研究会の写真展等イベントには参加し、大変楽しまれていたようでした。

御冥福をお祈り致します。



れていたとのことです。

ご冥福をお祈り致します。



・倉持悟郎さん

GIP の倉持悟郎さんが、去る２００６年９月３０日、６７歳にて逝去されました。

倉持さんとは展覧会のときにコメントをいただいたり、照明の問題や、作品のテーマについて研究会ともお付き合いがありました。また、学習会ではヨーロッパの写真家を紹介していただいたり、ヨーロッパの写真家事情等で貴重な情報を得ていました。これから、いろいろアドバイスをいただきたと思っていたのですが、大変残念です。

葬儀は、中島先生が名代として参列しました。倉持さんは、生前親しかった人からの花に囲ま

【原稿募集】

会員の皆様からの原稿をお待ちしています。

〔以下原稿投稿に関するお願い項目です。すみませんよろしくお願いします。〕

1. 写真原稿は、紛失事故防止のためできるだけネガやポジは避け、プリントでお願いします。
2. 手書き文章はスキャナーでパソコンへ入力できないので、原則として受け付けません。以下いずれかの方法にて投稿願います。
 - ・ワープロやパソコンでプリントアウトしたもの、(スキャナーでパソコンへ入力します。)
 - ・パソコンの電子メール
 - ・ウィンドウズの Word2000-2003
 - ・text ファイル(ちなみにこの会報は、ウィンドウズの Word2003 で作成しています。)
- ただし、どうしても手書き文章しか投稿できない事情がある場合は、事前に御連絡をいただくようお願いします。
3. イラストは手書きでも結構です。スキャナーで取り込みます。

〔編集部〕 荒井 崇